12／24（水）の発表

報道発表資料の配付日時　12 月 24 日（水）15 時 00 分

発表項目（行事名）	＜行く年来る年＞ 日高管内における「2025 年を振り返って」及び「2026 年に予想される主な動き」について		
記者レクチャーのお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	日高管内における 2025 年に取り組んだ主な事項及び 2026 年に予想される主な取組事項について、別添資料のとおりとりまとめましたので、お知らせします。		
参考			

報道（取材）に当たってのお願い		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所)

担当（連絡先）	日高振興局地域創生部地域政策課 地域政策課長　井神　淳 TEL　直　　通：0146-22-9070 公用スマホ：011-585-6101　（内線 41615）

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■TEAM HIDAKA 2025［7月～10 月］	総務課

日高山脈襟裳十勝国立公園の指定や新冠 IC の開通を契機に地域内の機運を醸成するため、管内7イベントにおいて、国立公園や新冠 IC 開通に関する普及啓発資材を用いた PR 及び簡易アンケートを実施。

■日高振興局授乳室［８月］	総務課

北海道福祉のまちづくり条例の理念に基づく道立施設の福祉環境の改善を図るため「すべての人にやさしいまちづくり推進事業」により昨年度から整備していた授乳室について、今年度「赤ちゃんのほっとステーション」登録の手続き等を経て８月育児の日（19 日）にオープン。

○「赤ちゃんのほっとステーション」について

子育て中の親子などが安心して外出できる環境をつくるため、授乳、搾乳とおむつ替えの両方が無料で可能な施設を登録したもの。

■自衛官向けバス運転体験会・就職説明会［３月］	地域政策課

人手が不足している日高地域のバス運転手の確保に向け、将来の再就職先としてバス業界を選択してもらうことをめざし、関連バス事業者や自衛隊と共催で実施。静内駐屯地の自衛隊員約 30 名が参加。

■ナナイロひだか高校生応援プロジェクト［４月～９月］	地域政策課

郷土愛を育み、進学で日高を離れてもまた町に戻り活躍できる人材の育成・環流をめざして、昨年度に静内高校の生徒が提案した「まちの活性化に向けた地域の認知度向上」を具体化するため、同校３年生が地元で働く方々を取材し再発見した地域の魅力を管内の中学３年生に伝える授業を実施。約 210 名の中学生が出席。

■日高管内町長選挙結果［４月～11 月］	地域政策課

町名	選挙期日	候補者別得票数（得票数順）
新 冠 町	令和７年（2025 年）４月 20 日	山本 政嗣　1,408 票（当選）
		村田 貞光　1,310 票
えりも町	令和７年（2025 年）５月 25 日	大西 正紀　1,549 票（当選）
		石川 昭彦　1,121 票
様 似 町	令和７年（2025 年）９月 28 日	荒木 輝明　1,443 票（当選）
		橋爪 伸恵　1,028 票
浦 河 町	令和７年（2025 年）11 月 30 日	松田 有宏　無 投 票（当選）

■ナナイロひだかサポーター［７月］	地域政策課

令和４年度から振興局職員を「ナナイロひだかサポーター」に任命し、副業活動や SNS を通じた地域の魅力発信を実施。取組４年目となる今年度の副業活動は活動地域と業種を拡大し、新たに平取町で取組を始め軽種馬農家や昆布漁業者、魚養殖業者での作業にも従事。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■日高地域づくり連携会議［７月］	地域政策課

日高地域の発展に向け、北海道開発局室蘭建設管理部と共同で「日高地域づくり連携会議」を開催。「持続可能な地域づくり」をテーマに各町の取組や課題について意見交換を実施。各町長のほか、オブザーバーとして参加した国の機関等を含め約 40 名が出席。

■第 27 回参議院議員通常選挙［７月］	地域政策課

任期満了に伴う参議院議員通常選挙が７月３日に公示され、北海道選挙区においては 12 名が立候補し７月 20 日に執行。日高管内の投票率は、選挙区、比例代表ともに 63.41%（前回 選挙区：59.16%、比例代表：59.15%）だった。

■若手職員向け勉強会［８月］	地域政策課

業務の効率化や改善点を考えるきっかけとしてもらうことを目的に振興局や町の若手職員を対象として、生成 AI の概要や活用事例、活用方法など実際にソフトウェアを利用しながら学ぶ勉強会を開催。町職員を中心に約 40 名が参加。

■幼稚園児向けバスの乗り方教室［９月］	地域政策課

地域住民の足の維持・確保が喫緊の課題となる中、公共交通の利用促進のために、バスの日に併せ次年度から小学校への登校等で利用が想定される様似町内幼稚園（こども園）の児童を対象に、バスの乗り方教室や実際に運行しているバスを使った体験乗車等をＪＨＢの様似営業所で開催。

■バス写真パネル展［９月～10 月］	地域政策課

公共交通の利用促進のために、バスの日に併せ、昭和や平成に日高管内を走るバスや車窓からの風景などの写真を振興局および富川市街地複合施設「とみくる」で展示。

■国立公園自然体験会 Feel The HIDAKA［１月］	魅力発信室

昨年９月以降、主に小学生等を対象とした自然体験会を管内全７町で開催。１月に新冠町で野鳥の巣箱づくりと環境省の保全活動をテーマに開催。多くの子どもたちが国立公園の価値を体感した。（日高町、平取町、浦河町、えりも町、新ひだか町は昨年９月～11 月に開催）

■HIDAKA を撮ろう！浦河高校写真部撮影会［３月］	魅力発信室

地元の高校生が地域の魅力を再発見するきっかけとして、各種フォトコンテストへの応募などを通じてひだかの魅力を幅広く発信することをめざして、浦河高校写真部による撮影会を開催。約 10 名の高校生が参加。

■ひだか馬の絵コンテスト［５月～］	魅力発信室

日高地域の馬文化の普及啓発に向けて、平成 16 年度から「ひだか馬の絵コンテスト」を開催。22 回目となる本年は日高管内及び東胆振地域の小学校 14 校 59 点が応募。11 月に開催した審査会で選定した 12 作品は、2026 年「ひだか馬の絵カレンダー」に掲載し、日高・胆振管内の公共施設や商業施設での展示を予定。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■日高山脈襟裳十勝国立公園一周年［６月、７月］	魅力発信室 環境生活課
国内 35 か所目、道内７か所目の国立公園に指定されてから１年が経過したことを受け、６月に自然保護官によるトークセッション、７月に「日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年記念シンポジウム」を開催。	

■移住・定住の取組［９月、11 月］	魅力発信室
９月の「北海道移住・交流フェア 2025 大阪会場」及び 11 月の「「JOIN 移住・交流＆地域おこしフェア 2025」」に出展し、関西圏及び首都圏在住の方に日高地域の見所や気候、生活に関わる事項等の移住相談をはじめ協力隊の任用情報などを発信。両会場の計 75 名の相談に対応。	

■＼うまどしひだか 2026／年賀状・SNS キャンペーン［12 月～］	魅力発信室 農務課
12 年に１度訪れる「うまどし」をきっかけに馬のふるさと「ひだか」の魅力を広くお伝えし、地域を認知し来訪していただくことをめざして、関係課が一丸となって「＼うまどしひだか 2026／キャンペーン」を実施。第１弾として年賀状・SNS を活用したキャンペーンを開催。	

■令和７年の防災対応	危機対策室
９月及び 11 月の暴風等の際には突風による家屋の損壊、大規模停電に見舞われるなど、様々な自然災害が発生。年度当初から震度４の地震が複数回発生したほか、７月のカムチャツカ半島付近及び 12 月の青森県東方沖を震源とする地震の発生に伴い津波警報が発表。さらに令和４年 12 月の運用開始以来初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表。	

■北海道災害対策日高地方本部指揮室訓練［５月］	危機対策室
大規模地震の発生を想定し、災害対策日高地方本部指揮室訓練において、関係機関と連携の上、指揮室設置に係る手順確認や防災情報システムを使用した情報伝達、本部員会議等を実施。	

■北海道地域防災マスター［７月、８月、９月、12 月］	危機対策室
一般向け認定・フォローアップ研修を日高町（７月）、新ひだか町及び浦河町（９月）で開催。また、高校生を対象とした研修会を浦河高校（８月）、及び静内高校（12 月）で開催し、地域防災活動のリーダーとなる北海道地域防災マスターを新たに 59 名（うち高校生 49 名）認定。	

■日高振興局管内一斉防災訓練［10 月］	危機対策室
災害初動時における課題を抽出し対応策を検討するため、振興局、管内７町及び防災関係機関が連携の上、大規模な地震・津波災害を想定し、地域住民が参加する避難訓練や土砂災害を想定した救出救助訓練など、実効性のある訓練を実施。	

■日高管内防災機関懇話会［２月、５月、11 月、12 月］	危機対策室
国、道及び町の防災関係機関が「顔の見える関係」を構築し、災害発生時の対応はもとより、防災に関する取組を円滑に進めることを目的に開催。当初、浦河町及び周辺の関係機関を参集範囲として開催していたが、11 月は日高西部地域、12 月は日高東部地域と管内全域に拡大。	

～2025 年を振り返って～

■地域医療提供体制の構築	保健行政室 静内地域保健室

進行する人口減少と高齢化に対応し、バランスのとれた医療提供体制を構築するため、管内の医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会等の医療関係者、自治体等によって構成する日高圏域地域医療構想調整会議を開催し、持続可能な医療提供体制についての協議を実施。

■障がいへの理解促進に向けた出前講座［８月～12 月］	社会福祉課

障がいがある方も障がいがない方も共に生活できる共生社会の実現に向けた「日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会（以下「地域づくり委員会」という。）」の取組として、地域の方々を対象に出前講座を開催。

〇手話出前講座

聴覚障がい者を講師に迎え、手話通訳者の協力を得ながら、学生を対象に手話出前講座を開催。聴覚障がい者に対する理解促進・手話の普及啓発を図った。

（開催場所）えりも高校、静内高校、浦河赤十字看護専門学校、富川高校、浦河高校

〇障がい児・者への理解促進に関する出前講座

地域づくり委員会の委員を講師に迎え、管内在住者を対象に障がい児を含めた子どもへの暴力防止に関する出前講座を開催し、障がい児・者に対する理解を図った。

（開催場所）門別公民館

※令和７年度日高人権擁護委員協議会秋季研修会のプログラムの１つとして開催。

■７町で「ゼロカーボンシティ宣言」を達成［３月］	環境生活課

３月５日、新冠町が地方公共団体において 2050 年に二酸化炭素実質排出ゼロにすることをめざす「ゼロカーボンシティ宣言」を表明。管内７町すべてが「ゼロカーボンシティ宣言」を達成。

■大阪・関西万博でのアイヌ舞踊の披露［５月］	環境生活課

５月 17 日、大阪・関西万博において日高管内を含むアイヌ関係者が伝統舞踊を披露。世界各国の来場客に向けてアイヌ文化の情報を発信。

■なないろパークレンジャー［７月］	環境生活課

７月から小学生の環境教育への参加を促す「なないろパークレンジャー」事業を開始。管内７町の関係機関等と連携して 45 の対象イベントを開催。

■ヒグマ対策［10～12 月］	環境生活課

今年度は北海道・東北を中心に熊の市街地周辺への出没が頻発し、人身被害の発生など日常生活への影響が深刻化。管内も出没・捕獲ともに昨年度を大きく上回り、ヒグマ注意報を２件発出。また、法改正による緊急銃猟の制度化、政府からクマ被害対策パッケージが示されるなど大きな変化があり関係機関との情報共有・連携強化、小学校等で出前授業を実施するなど注意喚起を実施。

■札幌圏での「ひだかフェア」［５～６月、12 月～１月］	商工労働観光課

日高産品の消費拡大と知名度向上を図るため、道のアンテナショップ「北海道どさんこプラザ札幌店」（５月下旬から６月上旬）、「コーチャンフォーミュンヘン大橋店」（12 月中旬から１月中旬）で「ひだかフェア」を開催。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■H2（Hidaka×Hotel）プロジェクト［６月～］	商工労働観光課、建設指導課、地域政策課

桜の開花時期やサラブレッド競り市の開催時期など来訪者が集中する時期に宿泊施設が不足することから空き家等を活用した宿泊業への参入を支援する「H2 プロジェクト」を開始。日高地域で宿泊業の開業をめざす方に向けて次のとおり取り組んだ。

①プロジェクト特設ページの開設［６月～］
宿泊業の開業フロー図など役立つ情報を集約した特設ページを振興局ホームページに開設。

②相談窓口の開設［６月～］
宿泊業の開業に必要となる手続きをはじめ開業希望者の相談を幅広く受け付ける窓口を開設。

③開業事例集の作成［８月～］
空き家活用や省人化など本プロジェクトで想定する宿泊施設の開業事例集を作成。

④宿泊事業創業セミナーの開催［11 月］
全国の空き家活用事例や空き家の選び方、経営・収支に関する知識などを学ぶセミナーを開催。

⑤民泊管理委託を活用した民泊経営の勉強会 in 新冠の開催［11 月］
宿泊業の開業を考える方からのご相談を受け新冠町で民泊経営に関する勉強会を開催。

⑥日高空き家活用等検討セミナー2025 の開催［12 月］
空き家の活用をテーマに空き家等利活用の一連の流れを学ぶセミナーを開催。

■新規高等学校卒業者企業説明会［６月］	商工労働観光課

企業活動や仕事に対する理解を深めるとともに、職業選択の視野を広げ地元就職の促進・定着を図るため、来年３月に卒業を予定する高校生を対象に管内を中心とした企業による説明会を対面及びオンラインで開催。14 企業等の出展と管内の高校７校 89 名が参加。

■国内外での観光プロモーション［９月ほか］	商工労働観光課

観光知名度向上及び誘客促進を図るため、愛知県で開催された旅行博（ツーリズム EXPO ジャパン 2025）をはじめとした道内外でのイベントに参加。メディア・旅行会社等に商品造成の働きかけを行い旅行商品の造成につなげるとともに、一般旅行者に対してひだか地域の魅力を PR。

■日高自動車道 日高厚賀ＩＣ～新冠ＩＣ間 開通前記念イベント ジョギング＆ウォーキング＆新冠フェスティバル［９月］	商工労働観光課

今年度の新冠 IC 開通を見据え、新冠町及び国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部と連携し、開通前の高規格道路等を活用した誘客促進と新冠 IC を周知するイベントを開催。メイン会場である新冠 IC から本線上でジョギング＆ウォーキングイベント等を実施し、サブ会場の道の駅「サラブレッドロード新冠」駐車場で管内の産業を紹介する小学生向け体験ブースの出展や管内観光の PR を実施。

■日高味覚フェア［10 月］	商工労働観光課

日高産品の知名度向上や消費拡大に向け、札幌市内のホテルで日高産品を使ったメニューを開発し、そのメニューをホテルで提供する「日高味覚フェア」を開催。コース料理全７品を開発し、期間中 168 食を提供。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■食のブランド・ステップアップ相談会［10 月］	商工労働観光課

胆振総合振興局及び株式会社北洋銀行と連携し、８社（機関）から食の専門家を招き、食関連事業者を対象とした商品の開発・改良、販路拡大に関する相談会を新ひだか町で開催。

■「オールひだかうまうま marche」観光物産展［11 月］	商工労働観光課

今年度の新冠 IC 開通を見据え、札幌圏からより近くなるひだか地域の魅力を PR し、誘客促進を図るため、町、民間団体、振興局が参画する優駿日高道!!オールひだか魅力発信協議会と各町で構成する優駿日高道!!オールひだか魅力発信キャンペーン町実行委員会と連携して、札幌駅前通地下歩行空間で観光物産展を開催。

■管内の農業生産状況［４月～］	農務課

今年は、ほぼ年間を通して気温・日照時間ともに平年を上回って推移したことから、作物全般にわたって生育及び各種農作業も平年より早く進んだ。水稲の作況単収指数（10 月 25 日現在）は「101」となったが、高温の影響で一部の野菜は品質低下が見られたほか、花きも草丈がやや短い状態での開花が見られた。

■ホッカイドウ競馬の発売額［４月～11 月］	農務課

今年のホッカイドウ競馬は、４月 16 日から 11 月 13 日までの 84 日間で開催。重賞競走の新設や公式 YouTube での情報発信など、魅力あるレースを提供したことやファンイベント、地元協賛レースの実施により年間発売額は 573 億 1492 万円となり、入場者数とともに過去最高を更新。

■軽種馬北海道市場の売却総額［５月～10 月］	農務課

軽種馬のセリ市である北海道市場では、計５回 14 日間の市場が開催され、売却総額は 184 億円で売却率はトータル 77.9%。

■牛乳・乳製品の消費拡大［７月、12 月］	農務課

生乳需要の喚起を図る取組として、７月 25 日に浦河小学校、12 月 25 日に荻伏小学校の終業式を活用して PR を実施。児童には「毎日の給食で多くの牛乳が飲まれていること」や、「牛乳にはカルシウムやビタミンなどの栄養が豊富に含まれていること」を紹介し日高乳業の牛乳を配布。

■日高管内家畜伝染病防疫演習［９月］	農務課

海外悪性伝染病への危機意識の共有と家畜伝染病発生時の迅速かつ的確な防疫措置の実施に向け、渡り鳥の季節を迎える前の９月に防疫演習を実施。振興局職員約 30 人が防疫衣の着用・脱衣の仕方、動力噴霧器の使用方法の実演と防疫作業員を受け入れる際の導線を確認。

■静内農業高校での出前授業［９月～10 月］	農務課

農業への関心と就農意欲を高めることを目的として、静内農業高校２年生を対象に出前授業を実施。平取町で営農している青年農業者ほ場、農業協同組合所管の農産加工施設、軽種馬関連施設の視察と農業の魅力や就農に関する講演会を開催。授業中は生徒達から積極的な質問がなされ、終了後も「現場を実際に見学することで営農の環境などを知ることができた」「実際に話を聞いて、今後の仕事の選択肢のひとつになった」との声が聞かれる等、農業への関心の高まりを感じられた。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■JBC 競走［11 月］	農務課

11 月３日、JBC 競走が門別競馬場と船橋競馬場で開催。門別競馬場での JBC 競走開催は６回目で当日の門別競馬場の入場者数は 3,139 人を記録。メインレースの JBC２歳優駿の発売額は 9 億 9,753 万円、１日の発売額は 19 億 6,648 万円を記録。JBC 競走４レース中３レースの優勝馬が管内の生産馬で強い馬づくりの成果が現れた。

■米づくり体験学習の開催［５月～11 月］	農村振興課

例年実施している「米づくり体験学習」も春の田植えから秋の稲刈り・精米作業と全て無事開催し、浦河町内の浦河東部小学校・荻伏小学校（小学５年生を対象）での合同で行われた。

・５月 27 日：田植え　　（参加者 55 名【うち振興局 16 名うち「個」育て支援５名】）
・７月 14 日：生長観察　　（参加者 33 名【うち振興局４名】）
・９月 12 日：稲刈り　　（参加者 59 名【うち振興局 16 名うち「個」育て支援３名】）
・10 月 7 日：籾すり・精米　（参加者 45 名【うち振興局４名】）
・11 月 19 日：収穫祭　　（荻伏小学校のみ参加者 32 名【うち振興局１名】）

■道民ひとり１本植樹・育樹運動［６月、10 月］	林務課

全道で展開されている、５年間に 500 万本の植樹・育樹を目指す「道民ひとり１本植樹・育樹運動」の取組として、道が進める教育・保育機関を対象とした推進事業により、浦河高校及び浦河フレンド森のようちえんとともに、植樹・育樹（体験）と環境教育（知識習得）を一体的に実施。

６月９日（木）　浦河高校植樹事業　【400 本植樹】
10 月 24 日（金）　浦河フレンド森のようちえん木育事業「植えよう　これからの森のために」【40 本植樹】

■HOKKAIDO WOOD BUILDING［６月、10 月］	林務課

道産木材の利用拡大に向けた道の認証制度「HOKAIDO WOOD BUILDING」に、新たな２つの建築物が登録され、管内での登録は５施設となった。

＜登録施設＞
【６月２日】新ひだか児童養育相談センター「もこもこ」（新ひだか町）
【10 月１日】富川複合施設「とみくる」（日高町）

■急峻地で活躍するタワーヤーダの実演会［７月］	林務課

ひだか南森林組合が２月に導入した急峻地で伐採木を効率よく集材できる高性能林業機械「タワーヤーダ」の実演会がえりも町有林内で実施され、全道から林業関係者約 180 人が参加。人手不足が深刻な林業の現場で省人化や安全性向上に役立つ新たな集材方式として期待。

～2025 年を振り返って～

■林業の担い手確保［６月～10 月］	林務課

管内における林業担い手の育成・確保を進めるため「日高地域林業担い手確保推進協議会」が、管内の林業関係者と協力しながら各種活動を実施。

〇管内普通高校等への協力

・日高高校インターンシップ（日高高校）　（森林室・林務課：９月）
・環境教育「百人浜に学ぶ（えりも高校）」　（林務課：９月）
・「地域を知る視察（静内農業高校）」　（日高中部森林組合・新ひだか町・農務課・農村振興課・水産課・森林室・林務課：10 月）

〇北森カレッジカリキュラムへの協力

・長期就業実践研修（三井物産フォレスト(株)平取山林事務所：６月）
・短期就業体験実習（(有)高野林業：10 月）
・北森カレッジ地域見学実習（ひだか南森林組合：10 月）

〇就業情報等の発信

・若手社員を高校に派遣する座談会＜主催　商工労働観光課＞（(株)三浦興産、林務課：９月）

■クリスマスツリーの設置［12 月］	林務課

木育の取組の一環として、地域の子ども達が木々とふれあい、森林づくりや木育の取組を身近に感じてもらうことを目的に、12 月 15 日～25 日の間、振興局１階エントランスホールにて、「日高森づくり協同組合」から寄贈いただいた新冠町産トドマツのクリスマスツリーを設置。

日高管内の大規模停電の影響により、クリスマスツリーの点灯式は 12 月 18 日に開催。夢の国幼稚園・保育園から年長組約 22 名が参加し、園児たちは用意したえりも町産アオダモ等のコースターをクリスマスツリーに飾り付けた。

また、サンタクロースに扮した髙見振興局長から、「日高地区緑化推進委員会」から寄贈された道産木材等を使った木のパズルと松ぼっくりを装飾したミニクリスマスツリーをプレゼント。

■管内の漁業生産～主要魚種の不漁や赤潮被害の長期化～	水産課

令和３年９月に発生した赤潮の影響により真ツブやヤナギダコの漁獲が未だ回復していない中、ミズダコに回復の兆しが見えてきたほかコンブ漁も順調に採取が進んだ。また、えりも町では昨年に引き続きオオズワイガニが好調。本来主要魚種である秋サケは記録的な不漁となった一昨年、昨年に比べ漁獲金額が対前年比 300%と上向いたものの漁獲減少が顕著ではない約 10 年前と比べると漁獲量は 10 分の１程度に留まっており、厳しい状況が続いている。

■浦河港におけるサーモン養殖試験［７月］	水産課

７月１日、浦河町や日高中央漁業協同組合で構成する浦河町栽培漁業研究会が昨年 11 月から試験的に実施していた浦河港でのトラウトサーモン養殖の水揚げが行われた。「当初の想定よりも良い結果が得られ、今後に希望が持てる」とし、３か年計画の２年目となる今年 11 月からは生け簀を昨年の１基から２基に増やし試験を実施。

～2025 年を振り返って～

■日高の豊かな海の幸フェス［11 月］	水産課

主要魚種の不漁など厳しい状況にある管内水産業を応援し地域を盛り上げる取組として、昨年に引き続き「日高の豊かな海の幸フェス」を開催。

第 12 弾 食育を目的とした軽種馬育成調教センターへの日高水産物の贈呈及び Lunch 会

若い世代に日高水産物の魅力を伝えるとともに、魚食習慣の普及を図るため、軽種馬育成調教センターで育成調教や騎乗の技術を学ぶ研修生へ水産物の贈呈及び Lunch 会を実施

■日高空き家活用等検討セミナー2025［12 月］	建設指導課

12 月４日、H2 プロジェクトと連動して、空き家の選び方、宿泊業を始める手続き、活用事例紹介など『空き家の活用』をテーマにした「日高空き家活用等検討セミナー2025」を開催。一般住民、地域おこし協力隊など約 20 名が参加。

■広葉樹テーブル製作ワークショップの開催、広葉樹テーブルの展示［1 月、11 月］	森林室

新ひだか町の女性林業グループ「西川マザーウッズ」が日高産の広葉樹を活用したテーブル製作ワークショップを開催し、参加者 16 名がテーブルを作成。作成されたテーブルの一部は各種イベントで展示され、日高産広葉樹の PR に寄与した。

〈展示実績〉

1 月 29 日　川合・西川ふれあいカフェ（新ひだか町：川合ふれあい生活館）

1 月 31 日　林産技術セミナー（浦河町：日高振興局）

11 月 18 日　オールひだかうまうま marche（札幌市：札幌駅前地下歩行空間）

■獣医学生インターンシップの受入れ［８月］	日高家畜保健衛生所

日本大学及び日本獣医生命科学大学から各１名の学生を受け入れ、家畜保健衛生所の業務内容等の説明を実施。また、馬の病理解剖を含む病性鑑定、牛の公共牧場衛生検査及び馬の臨床獣医師の診療の見学を実施。

■獣医学生インターンシップの受入れ［11 月］	日高食肉衛生検査所

北海道大学獣医学部から２回計４名の学生を受け入れ、と畜検査の現場見学や業務内容の説明等の実習を実施。

■食肉の輸出量の増加	日高食肉衛生検査所

と畜場における１日当たりの処理可能頭数を 200 頭分増やし、今年の総輸出件数は昨年の 1,214 件に対して 1,442 件に増加（11 月末時点）。

■S-TEAM 教育推進事業「探究チャレンジ・アジア」［２月］	日高教育局

２月、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力などを育成することを目的に高校生や特別支援学校高等部の生徒が取り組んだ探究活動の成果発表会として開催される「探究チャレンジ・アジア」に日高管内及び胆振管内の代表として静内農業高校、浦河高校の２校が参加。各学校の取組は高く評価され、浦河高校が「北海道知事賞」、静内農業高校が「ニトリ賞」を受賞。

〈日高振興局〉

～2025 年を振り返って～

■絆づくりメッセージコンクール ～いじめやネットトラブルの根絶を目指して～［６月～10 月］	日高教育局
いじめやネットトラブルの根絶を目指し、思いやりをもって人と接する社会の実現に向けた意識の向上を図ることを目的としたコンクールを開催。管内の児童生徒から、ことば・メッセージ部門に約 430 点の応募があり、えりも岬小学校児童の作品が小学生の部（個人部門）で、厚賀小学校児童の作品が小学生の部（団体部門）で、えりも中学校生徒の作品が中学生の部（個人部門）でえりも高校の生徒の作品が高校生の部（個人部門）で、それぞれ管内最優秀賞に選出。	

■放課後活動推進協議会［７月］	日高教育局
放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的に、道民を対象として日高合同庁舎を会場に「子どもの体力づくりにつながる運動あそび」「子どもとの安全と応急手当」等、管内の講師による４つの演習を実施。事業当日は 17 名が参加し、子どもたちに関わる全ての方に役立つスキルを体験的に学んだほか、日頃の取組の交流を通して連携を深めた。	

■静内農業高校生産馬の売却［９月］	日高教育局
９月 16 日、日高軽種馬農業協同組合北海道市場で開催されたセプテンバーセールに北海道静内農業高等学校生産馬「アツコ 2024」と「ナリタトップスター2024」が上場され、それぞれ 320 万円（同校牝馬落札価格史上２位）、850 万円（同校落札価格史上２位）で落札。	

■全国学力・学習状況調査［11 月］	日高教育局
小学６年生及び中学３年生を対象に毎年実施される全国学力・学習状況調査において、中学校では国語・数学ともに、小学６年時に比べると全国平均との差が縮まっており、同集団での比較では改善の傾向。ほか小学校で「前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日活用した」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回るなど成果。	

■部活動地域展開に係る講演会［12 月］	日高教育局
管内の中学生等のスポーツ・文化芸術に係る環境の整備及び部活動の地域展開に向けて、子どもに関わる関係者と課題や考え方の共通理解を図ることを目的として講演会を開催。教職員や保護者をはじめ、スポーツ・文化芸術団体関係者、町教育委員会関係者等が参加。	

〈日高振興局〉

～2026 年に予想される主な動き～

■ナナイロひだか高校生応援プロジェクト［１月～９月］	地域政策課

郷土愛を育み、進学で日高を離れてもまた町に戻り活躍できる人材の育成・環流をめざして、高校生が地域の活性化に向けた取組を自ら企画・実行することを目的として、静内高校の現２年次（４月以降の新３年次）を対象とした探究活動を実施。

■日高管内の町長選挙［４月］	地域政策課

町長の任期満了に伴い、管内の２町においてそれぞれの任期満了日前 30 日以内に町長選挙が執行される予定。

町名	町長（期数）	任期満了日
日　高　町	大鷹　千秋（２）	令和８年（2026 年）４月８日
新ひだか町	大野　克之（２）	令和８年（2026 年）４月 22 日

■防災訓練の実施［４月、10 月］	危機対策室

〇日高振興局指揮室設置・運営訓練（４月）

大規模災害の発生を想定し、日高振興局に指揮室を設置するとともに、北海道防災情報システムにより管内７町との情報伝達訓練を実施。

〇日高振興局管内一斉防災訓練（10 月）

大規模災害の発生を想定し、管内７町の他、自衛隊、海上保安署、警察、消防といった防災関係機関と連携して防災訓練（避難訓練、救助訓練、情報伝達訓練等）を実施。

■防災教育の推進［６月、８月］	危機対策室

〇北海道地域防災マスターの認定・フォローアップ研修（６月、８月）

地域防災活動のリーダーを認定・育成するため、研修会を開催。

一般向け（６月頃）　：日高西部・中部・東部地区で各１回ずつ開催

高校生向け（８月頃）：浦河高校、静内高校

〇一日防災学校（時期未定）

管内の中学校や高校で実施している一日防災学校の取組として「北海道版避難所運営ゲーム（Do はぐ）」等を行い、防災教育の取組を支援。

■日高管内防災機関懇話会［時期未定］	危機対策室

国、道及び町の防災関係機関が「顔の見える関係」を構築し、災害発生時の対応はもとより、防災に関する取組を円滑に進めることを目的に開催する予定。

■管内の巨大地震への取組［時期未定］	危機対策室

日本海溝･千島海溝周辺海溝型地震は、令和３年１月１日から 30 年以内に発生する確率が 70～80%と想定され、管内でも大きな人的被害が想定されている中、各町では避難施設や避難路の整備等の様々な取組が進められている。

・避難路の整備（日高町）
・津波避難タワーを整備（新冠町）
・高台に避難施設を整備（様似町・えりも町・新ひだか町）
・救命艇を整備（様似町）

〈日高振興局〉

～2026 年に予想される主な動き～

■障がいへの理解促進に向けた出前講座［時期未定］	社会福祉課

昨年に引き続き、障がいがある方も障がいがない方も共に生活できる共生社会の実現のため、「日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」の取組の一つとして、地域の方々を対象に開催する予定。

〇手話出前講座

聴覚障がい者を講師に迎え、手話通訳者の協力を得ながら、学生を対象に手話出前講座を開催。聴覚障がい者に対する理解促進、手話の普及啓発を図る。

〇障がい児・者への理解促進に関する出前講座

社会の障がいに対する理解を促進し、福祉業務への興味を持つきっかけをつくることを目的に出前講座を開催。

■日高アイヌ文化のシンボルマーク［時期未定］	環境生活課

日高地域のアイヌ文化の魅力発信・普及啓発を効果的に行うため、アイヌ文様を取り入れた日高独自のシンボルマークを作成。

■なないろパークレンジャー［時期未定］	環境生活課

各町、学校など関係機関への働きかけを強化し「なないろパークレンジャー」対象イベントを更に拡大。

■ヒグマ対策の推進［時期未定］	環境生活課

各町、警察、猟友会など関係機関と連携し、ヒグマ対策の強化を図る。また、小学校等を対象としたヒグマ出前授業の利用拡大を図る。

■新規高等学校卒業者企業説明会の開催［６月］	商工労働観光課

令和９年３月の高等学校卒業者を対象に生徒と企業の相互理解を深めることを目的として、ハローワーク浦河及び日高教育局との共催により企業説明会を開催。

■札幌圏と首都圏での「ひだかフェア」［時期未定］	商工労働観光課

日高管内の「食」の魅力を発信するため、札幌圏で物産展を開催。札幌圏の消費者及び観光客に「ひだか産品」を PR。

■札幌圏での「グルメフェア」［時期未定］	商工労働観光課

ひだか産品の消費拡大を図るため札幌圏のホテルで「グルメフェア」を開催。グルメフェアで提供されたレシピを SNS で公開し、消費喚起とブランドの向上を図る。

■日高自動車道利用促進に係るプロモーション［時期未定］	商工労働観光課

今年度の新冠 IC 開通により、札幌圏からより近くなるひだか地域の魅力を PR し、誘客促進を図るため、町、民間団体、振興局が参画する優駿日高道！！オールひだか魅力発信協議会において、札幌圏における日高自動車道利用促進 PR イベントの開催やメディアを活用したプロモーション活動などを実施。

〈日高振興局〉

～2026 年に予想される主な動き～

■JBC 競走［11 月］	農務課

令和８年の JBC 競走は 11 月３日に開催。JBC クラシック(2100m)、JBC スプリント(1400m)、JBC レディスクラシック(1500m)は金沢競馬場、JBC２歳優駿(1800m)は門別競馬場で行われる。４レース中３レースを管内の生産馬が制した昨年と同様に令和８年も管内生産馬の活躍を期待。

■米づくり体験学習の開催	農村振興課

令和８年度も「米づくり体験学習」の支援活動を継続予定。また、当支援活動は、日高振興局「個」育て支援体験研修事業にも春の田植え、秋の稲刈りを登録し、新規採用者等の参加を募る予定。

■日高の地域材の魅力発信に向けて［２月～11 月］	森林室

新ひだか町の女性林業グループ「西川マザーウッズ」は、２月に行われる全道規模の報告会において、日高の広葉樹材を活用した取組を中心に、グループの活動について広く発信する予定。2025 年に引き続きグループ活動で作成した地域材テーブルの展示も計画。

〈活動内容〉

2 月　未来につなぐ森林づくり交流会（札幌市）

7 月　北海道・東北ブロック「林業グループコンクール」（秋田県）

11 月 札幌駅前地下歩行空間における展示　（札幌市）

■日高管理区整備管理計画策定に係る意見交換会の開催［10 月］	森林室

５年を１期とした 10 年計画の整備管理計画について、次期計画（後期５か年（令和９～13 年））策定に向け、道有林の整備及び管理に係る方針について、関係機関、地域住民を対象とした意見交換会を実施（計画策定：令和９年３月）。

■BRIDGE 構築事業「Ezo 探究」プロジェクト 「Ezo 探究-festival」［１月］	日高教育局

日高管内及び胆振管内の道立高校生を対象に、探究活動の成果発表と意見交換を通して考えを深め、新たな課題を見つけ、探究の充実とよりよい社会をめざす姿勢を育てることを目的とした発表会を胆振・日高管内合同で令和７年 12 月にオンラインで開催し、発表における評価が高い上位２校については、日高管内及び胆振管内の代表として、令和８年１月に開催される「Ezo 探究-festival」（全道成果発表会）へ派遣。

■全国学力・学習状況調査［４月］	日高教育局

小学６年生及び中学３年生を対象に毎年実施される全国学力・学習状況調査において、令和８年度は、４月 23 日に国語・算数（数学）のほか、中学校では英語を実施予定。なお、中学校英語については、生徒が１人１台端末を用いて回答。